概要

総合診療科は、臓器別専門科だけでは対応できない患者さんをトータルに診療していく部門として、平成16年に県内に先駆けて開設されました。高齢化社会になってひとりひとりの患者さんが複数の慢性疾患を抱え、診療科が特定できない様々な症状を訴えて病院を受診されます。総合診療外来では、「ドクターG」として丁寧な医療面接と身体診察を行うことにより鑑別診断を行っていきます。そして病態の「緊急性」、「重要性」、「問題解決性」を考慮して治療を計画していきます。また総合診療科は研修医に「総合診療マインド」を習得させる役割を担っております。日々の外来、入院診療が研修医の修行の場となっています。

●対象疾患

総合外来には、発熱などの内科救急の患者さんや、どこの病院でも原因不明と言われて藁をもつかむ気持ちで受診される方もおられます。診断推論の技法を駆使することにより、このような患者さんの多くにおいて、その原因を突き止めることができました。そのような積み重ねが評価され、最近では不明熱や原因不明の不定愁訴の患者さんの精査目的で、地域の先生方から紹介される件数が増えてきました。

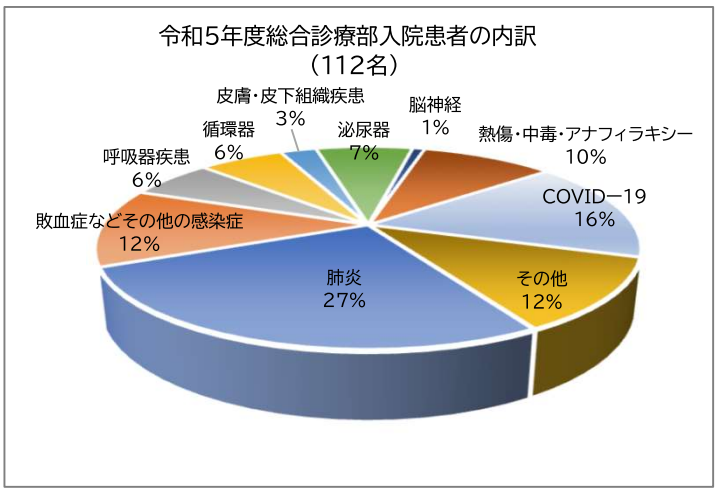
また当院は山口県のエイズ診療中核拠点病院に指定されており、診療科長の佐藤とHIV診療チームが外来および入院診療にあたっています。また2000年末から国内で流行し始めた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）患者の外来診療および入院診療もすべて総合診療科が担当しています。

診療実績

総合外来には週あたり平均59.3名、年間3,103名の患者さんが受診されました。午前午後フル回転で、研修医とともに診療に当たっております。地域の先生方からの紹介も多く、その期待に応える責任を感じています。

また入院部門は総合外来からの入院に加えて、救命救急センターからの内科系救急疾患の患者さんの入院を担当しています。昨年1年間は計 名の患者さんの入院診療に当たってきました。図からもわかるように、疾患ジャンルは感染症を中心に多岐にわたっており、総合診療科をローテートする研修医は自らの臨床能力をフルに発揮させ、さらに関連する専門医とのコミュニケーション能力も求められます。総合診療科が卒後臨床研修の中心的役割を担っている理由がここにあります。

傷病名	
肺炎	30
敗血症などその他の感染症	14
呼吸器疾患	7
循環器	7
皮膚・皮下組織疾患	3
泌尿器	8
脳神経	1
熱傷・中毒・アナフィラキシー	11
COVID−19	18
その他	13
合計	112



お知らせ

診療科長の佐藤は2024年3月末で副院長職を定年となり、4月から救急・総合診療部長として勤務を続けます。
これからもよろしくお願いいたします。